

【提出様式】 令和５年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 西巢鴨小 学校

評価対象者数（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
225	243	16	9

領域	豊島区教育 ビジョン 2019 基本方針等	評価 番号	評価項目	年間評価																自己評価 概要	学校関係者による評価		次年度に 向けた 改善策				
				児童・生徒				保護者					地域					教職員				学校関係者 評価の意見		評 価			
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3		2				1	0	
I	就学前から小学 校・中学校への 円滑な接続	I－1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、 中学校)と連携を図ろうとしている。	児童・生徒を対 象としたアン ケート集計表を ご参照くださ い。						84	141	13	2	3	5	4	0	0	0	10	13	0	0	幼稚園（保育園）とは全学年で、 学年に合った連携をとっている。 6年生は近隣の中学授に行き授業 体験をしている。	まどめ展が合同で開催されていた時は 発表を見て感激した。現在の形の公開 では参観ができず残念だった。以前の 形であると思う。	A	近隣すべての園と交流するのは難しい が、いくつかの園と交流している。HP で発信し、保護者にも見るように声か けをして理解を図る。
II	確かな 学力の育成	II－1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分 かりやすい授業を行っている。							88	147	5	1	2	2	7	0	0	0	6	17	0	0	肯定的評価90%以上。問題 解決や調べ学習のためのツ ールとしてタブレットを活用さ せている。児童同士の考えを その場で共有させることもで きた。習熟させるために、宿 題の出し方を工夫する必要が ある。	タブレットの活用が進んでい ることはありがたい。考える 経験を豊かにする活動とし て、さらに活用してもらいた い。宿題をもう少し出して もらいたい。	A	ICTのさらなる有効活用について校内で 研修したり、教員同士で共有したりし ていく。宿題と宿題以外の家庭学習に ついて、再度保護者会等で説明する。 自主学習を習慣づけていけるように指 導していく。
		II－2	学校は、I C T機器やタブレット端末等の活用 により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの 意欲の向上に取り組んでいる。							107	112	21	1	2	5	4	0	0	0	8	15	0	0				
III	豊かな 心の育成	III－1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をと おして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づく りを推進している。							120	114	7	0	2	2	7	0	0	0	6	17	0	0	肯定的評価96%以上。学校 教育全体を通して、道徳教育 推進教師を中心に、全教師が 協力して道徳教育を展開し た。道徳地区公開講座では、 SDG sに関連付けた授業の公 開と交流会を開催できた。	友達との和を大切にしている と感じる。道徳地区公開講座 の意見交流会では、普段接す ることのない教員や他学年の 保護者と交流できて勉強に なった。	A	協働的に課題解決をしていく場面をつ くり、全教育活動を通して、豊かな心 の育成していく。物事を多面的・多角 的に考え、自己の生き方にういて考え を深められるように、道徳教育の要で ある道徳科の授業を大切にしながら、 日常の指導も行っていく。
		III－2	学校は、生命を大切に する態度や思いやり、優 しい心を育てている。							104	132	6	0	1	4	5	0	0	0	3	18	2	0				
IV	健やかな 体の育成	IV－1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積 極的に取り組んでいる。							119	117	6	0	1	4	5	0	0	0	11	12	0	0	肯定的評価97%以上。体育 の授業以外に、プチ運動会、 にしす子タイム、持久走、 縄跳びの取り組みなど体を動 かす時間をたくさん設けるこ とができた。給食試食会で保 護者への食育指導についての 理解につながった。	体育の授業を楽しみにしてい て、活動内容を家で話してく れる。給食試食会があり、栄 養についてしっかり考えられ ていることを知ることができ た。	A	栄養士と養護教諭の連携により、食と 健康のつながりについて、児童への授 業が実施できると、さらなる学びと理 解につながる。
		IV－2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に 取り組んでいる。							112	130	1	0	0	4	5	0	0	0	5	17	1	0				
V	一人一人を大切 にする 教育の推進	V－1	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、早 期対応）に学校全体で組織的に対応している。							68	149	15	1	10	3	5	1	0	0	6	16	1	0	肯定的評価89%以上。前年度 から4ポイント上がった。いじめ の未然防止のために、教師は日常 の生活で児童の変容を見逃さない ようにしてきた。児童が困った時 は、話を聞いたり、保護者に連絡 をしたりした。生活指導連絡会 で共有し、必要に応じ校内委員会 を開き、個別に対応をしてきた。	先生方同士の連携がすばらし いと感じる。クラスや学年を 超えて一人一人の子供を見守 る環境が児童への安心感にも 繋がっているように思う。2学 期に不登校が続いた際、面談 やタブレットでのやりとりな ど、心にかけていただいた。	A	引き続き、いじめ防止対策委員会や生 活指導連絡会を活用し、組織的に対応 する。その児童に合った支援につい て、保護者と連携して進めていく。実 態に応じて、通常の学級の児童と特別 支援学級の児童が交流及び共同学習 をしている。協働的な学びを積極的 に取り入れていく。
		V－2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一 人一人に寄り添いながら、指導を行っている。							79	144	16	0	4	1	7	1	0	0	6	17	0	0				
		V－3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一 人一人に適切な指導を行っている。							109	121	7	0	6	3	6	0	0	0	5	18	0	0				
VI	教師力の向上と 魅力ある 学校づくり	VI－1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生 活を送っている。							92	137	11	1	2	3	6	0	0	0	12	10	1	0	肯定的評価91%以上。教師 は校内での研究や区の研修に 積極的に参加し、授業改善や 生活指導力に努めた。保護者 の意見を集め、反映する機会 を増やす。	本校の児童は比較的落ち着い ていると思う。	A	保護者一人一人のすべての要望に応え ることはできないが、意見として真摯 に受け止め、改善すべきところは改善 していく。
		VI－2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止 め、学校改善に生かしている。							88	135	12	3	5	5	4	0	0	0	3	19	1	0				
VII	家庭・地域との 連携	VII－1	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりや ホームページ、学校公開等によって、分かりやす く伝えている。							104	130	8	1	0	4	5	0	0	0	6	17	0	0	肯定的評価93%以上。人数 制限なく学校公開が再開でき た。HPのアップ回数を前年度 より増やすことができた。普 段の家庭との連携の他、地域 行事などでの協力もできた。	毎日ホームページを拝見してい る。都度更新して頂き、学校の様子 が分かるので楽しみである。もう少 し地域を巻き込んだ取り組みを促進 して頂くより良いと思う。アンケー トをタブレットで回答したい。学校 に掲示板を設置してお知らせすると よい。	A	アンケートをタブレットを使って回答し たいという意見もあるが、回答率が かなり下がってしまうのでしばらくは 紙ベースで行う。学校の安全面を第 一に考慮して、学校関係者には、こ れまで通り毎月封書でお知らせを する。
		VII－2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育 している。							87	141	12	2	1	5	2	2	0	0	5	17	1	0				
VIII	特色ある 教育活動	VIII－1	学校は、楽しい体育授業への取り組みに関する教 育を推進している。						122	115	6	0	0	4	4	1	0	0	12	11	0	0	肯定的評価97%以上。昨年度 より7ポイント上がった。どの児童 にとっても楽しい授業作りの実現 に向けて、インクルーシブ型の考 えを基に、授業の工夫や環境整備 をしてきた。	インクルーシブの視点は、学校の 特色として、これからも大切に していってほしい。	A	指導教諭を中心に、インクルーシブ 型の考えを元に、体育の授業を進 めてきた。授業の振り返りをさら に充実させ、次時に生かし、誰も が楽しい体育の授業改善につな げていく。他教科にも広げてい けるように通常の学級と特別支援 学級との連携をさらに密にして いく。	

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある